自己評価報告書

令和３年度　中央区立晴海学校　自己評価報告書
中央区立晴海中学校　所在地：東京都中央区晴海１丁目５番３号 校長名:藤江　敏郎 副校長：山崎　雄功 生徒数４８１名（１年１５５名、２年１６３名、３年１６３名）学級数１５ 教職員数　教員２５名　都講師２名　区講師６名　ALT １名　栄養士１名 主事４名　スクールカウンセラー2名　スクールソーシャルワーカー1名 特別支援教室専門員１名　心の教育相談員１名　図書館指導員１名 学習指導補助員９名　介助員１名　学校業務支援員１名

１　重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標１　生徒の学習意欲を高め、確かな学力の定着を目指す教員の授業力の向上

①シラバスの充実と活用

・年度当初、年間計画を立て授業内容や生徒へのアプローチの仕方、評価の方法など明確することにより学習意欲を高めることができている。

・国語科を中心とし言語活動・表現力を身につけさせ、各教科等での話合い活動、それらをまとめてクラス発表する取組が計画的に行われている。また、授業でのクラス発表にとどまることなく、総合的な学習の時間など学年全体が集まり学年内で発表を行い、より良い表現方法を共有している。

②基礎学力の定着

・学校評価アンケートより「②　:個に応じた指導を徹底し、生徒の基礎学力が身に付くように教えている」「③:学習内容を工夫し、生徒の学習意欲が向上するような授業をしている。」の質問において肯定的な回答が８０％を教師・生徒ともに超えている。授業を通して生徒の学習に対するモチベーションを高めるための教材研究や声かけ、アプローチの仕方など工夫し、その成果が出ている。

・生徒授業アンケートより授業規律については、「良い」「まあまあ良い」が８０％を超ており、どの教科ともしっかり授業を行っている。しかし、指示する内容について充分な対応をすることのできない生徒もいる。同じ学年でも発達段階に違いがあるので、その配慮については学校として考えていかなければならない。

③教師の指導力向上

・タブレット端末を使用した様々な学習に取り組んでいる。教員により ICT に関する指導力に差があるが、]」ＣＴ支援員の協力を得て授業に生かしている。

・教科内での ICT の活用方法や指導法の打合せ、お互いの授業見学などを通して教員の指導力は確実に向上している。

・OJT により若手教員が積極的にベテラン教員に指導方法や評価などについてアドバイスを受け、授業に取り入れる姿が多く見られる。

④積み重ねの学習指導の工夫と場の設定

・学校評価アンケート「⑥：モーニングタイムの朝学習や放課後の質問教室など学習機会を通じて生徒の学習意欲の向上に役立つようにしている。」では、８０％に届かず、その成果が十分でないとなっている。一人一人の生徒が自ら課題に向き合う姿勢やそれを援助する教師の工夫改善がさらに求められる。また、「⑤ ：生徒の家庭学習の習慣が身に付くような働きかけや指導の工夫をしている。」については、生徒が帰宅してからの生活が忙しく、なかなか学習の時間が取れないという現実もある。

⑤各種検定への挑戦

・各学年で全員受験を実施するにあたり、朝のモーニングタイムや個別指導により意欲を高め、自身の目標とする検定級へ挑戦させることができた。結果については、ホームページに掲載をしていく。

重点目標２　生徒の活躍の場を意図的に増やし、生徒を鍛え、充実した３年間を過ごす

①学校生活の基盤である環境整備

・行事については実施方法が縮小、延期。中止となることが多く、生徒にとってその判断を受け入れざるを得えない状態になることに心苦しさがあるが、感染対策を講じながら工夫し、実施している。

・コロナ禍においても前向きに明るく学校生活を送っている生徒が多い。

②生徒の成長と人権教育の推進

・学校評価アンケートの「⑩:教育活動において人権を尊重する姿勢で生徒の指導にあたっている。」「⑭:生徒の問題や悩み、トラブルなどを見逃さずに相談にのり指導している」において教員より生徒の評価が高い。各学年が課題のある生徒に対してチームとし協力し対応している。

・学校評価アンケートの「⑨：学習や部活動、行事によって生徒の努力を認めたり励ましたりして、学校生活が充実するような指導をしている。」では、教師・生徒・保護者ともに肯定的な意見が８０％を超えている。日常の教員と生徒の関わりには、何気ない会話であったり、励ましやアドバイスが多く見られ信頼関係が築かれている。

「⑦：生徒が学校や校外で積極的にあいさつをしている。」についても、その必要性・大切さを意識し、生徒会を中心にあいさつ達動を継続的に行ったり、学年独自でのあいさつ運動 。 部活動において元気なあいさつの励行などを行い効果が現れている。

２　重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取り組み状況

・学校全体で生徒を育てていこうとする気持ちがとても強い。指導については、基本は学級担任が中心となるが、学級で起こったことは学年で共有し、必要に応じて複数で対応していく協力体制ができている。３学年ともにそのようにワンチームとしての取組となっており、それが学級全体としてのまとまりとなっている。

・さまざまな理由があるが不登校生徒が非常に多くなっている。不登校生徒への対応は、担任が電話やGoogle Meetなどで当該生徒と繋がりをもっている。また、状況によっては、教育センターの適応教室「わくわく２１」やスクール・カウンセラーと連携を取り、面接を設定し心の安定を図っている。担任は、スクール・カウンセラーから面接の状況を直接聞き情報を共有している。

３　今後の改善方策

・校務が一部の教諭に偏ることがないように教務主任・生活指導主任・進路指導主任は、校務を分担し、その進行管理を行うように確認している。

・教職員のワーク・ライフ・バランスの大切さを共有し、公私のバランスを全員が意識できるようにする。本校の年齢バランスは、子育て世代の若手が多い。また、年配の教職員においては介護のための時間が多くなっている。看護休暇・介護休暇・育児休暇などの取得については、教職員全体で協力して補うよう働きかけている。